株式会社 ピクセラ
製品説明会

2004年8月

本日の内容

足下の業績について

今後の開発方針

製品展開について

足下の業績について

2004年9月期第3四半期の決算概況

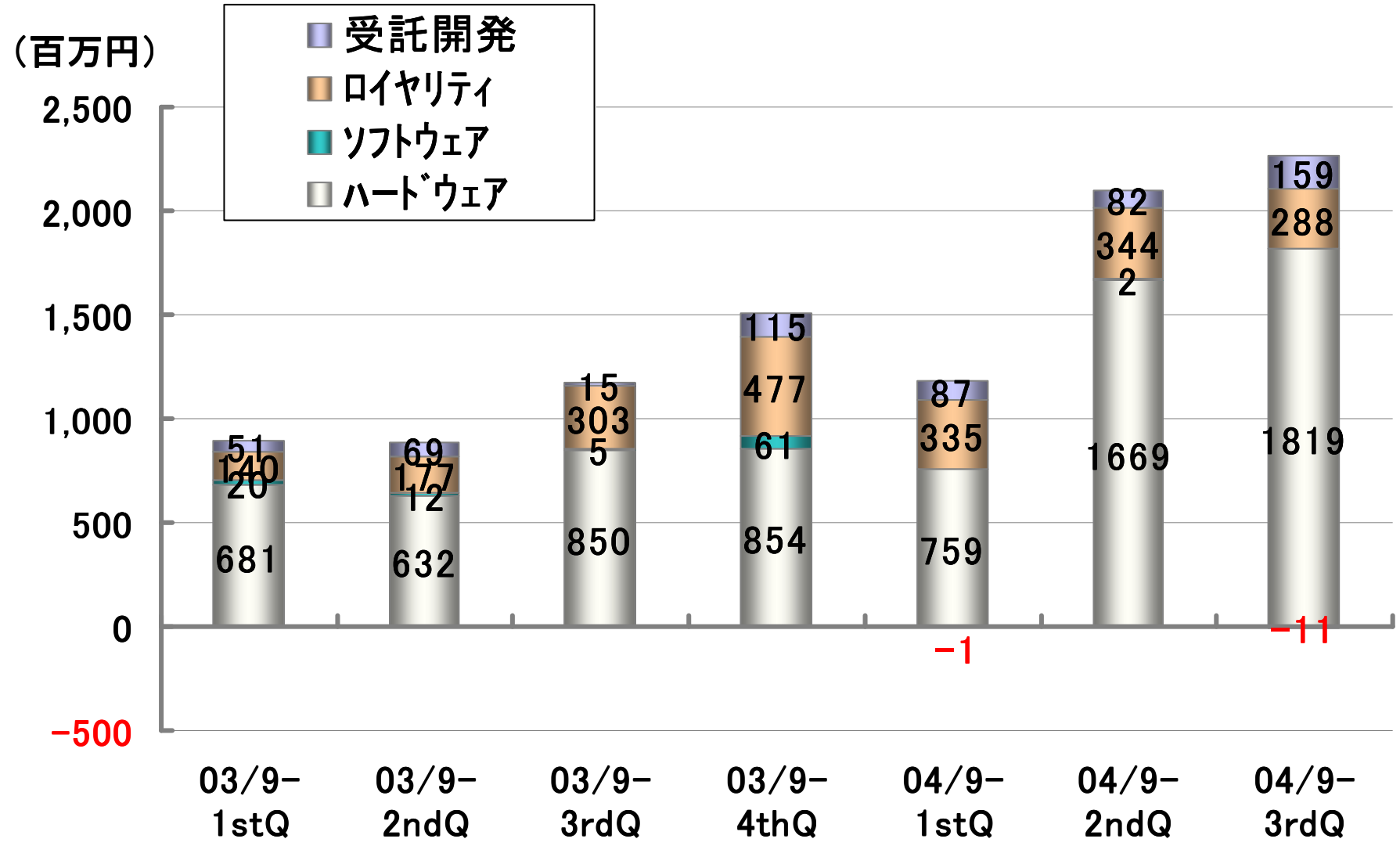
（単位：百万円、%）

	2004/6・Q3		2004/9通期予想	2003/6・Q3	2003/9通期実績
	金額 構成比	前期比	金額 構成比	金額 構成比	金額 構成比
売上高	5,535	187.0	7,711	2,960	4,469
売上総利益	1,722 31.1	160.0	2,413 31.3	1,076 36.3	1,809 40.5
営業利益	759 13.7	169.5	1,103 14.3	448 15.1	911 20.4
経常利益	746 13.5	202.0	1,015 13.2	369 12.5	825 18.5
純利益	438 7.9	110.0	605 7.8	398 13.5	659 14.8

第3四半期業績のﾎﾟｲﾝﾄ

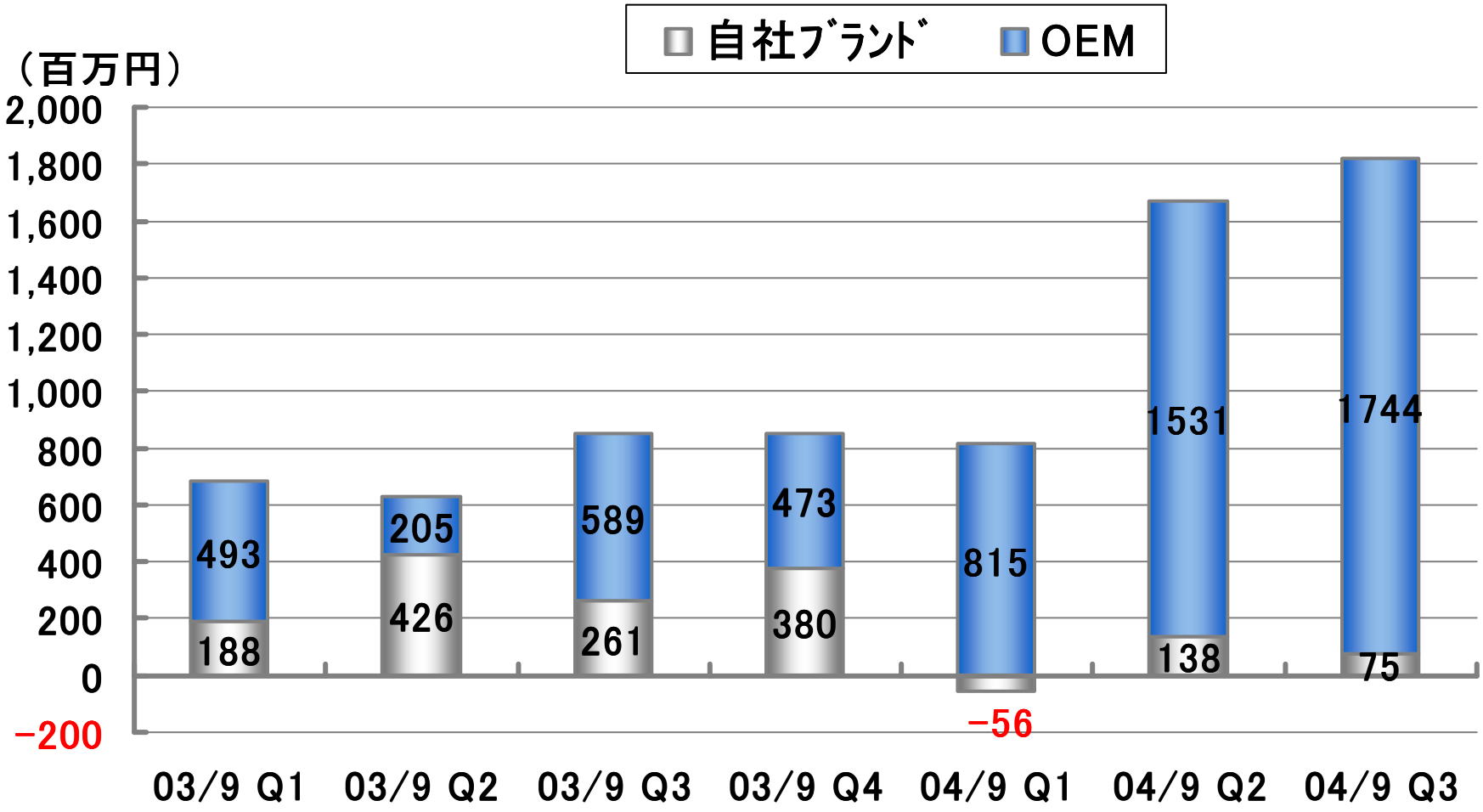
- ハードウェアOEM
  - OEM供給先PCの販売増加
    - ノートPCへの搭載増加
- ロイヤリティ製品
  - デジカメ好調
    - 供給先別に機能を拡大

製品別売上高推移(四半期)



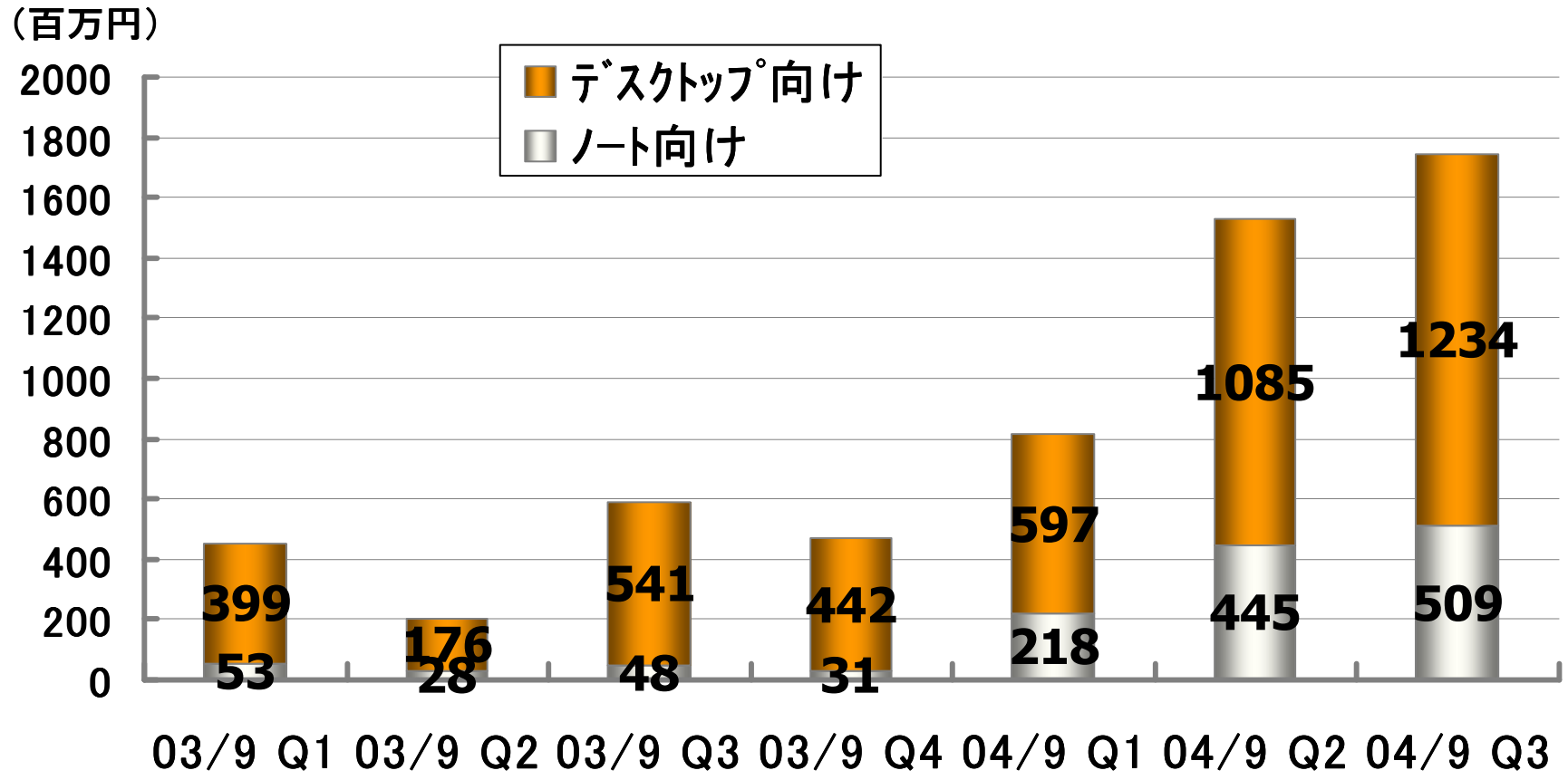
ハード売上高推移

【自社／OEM】

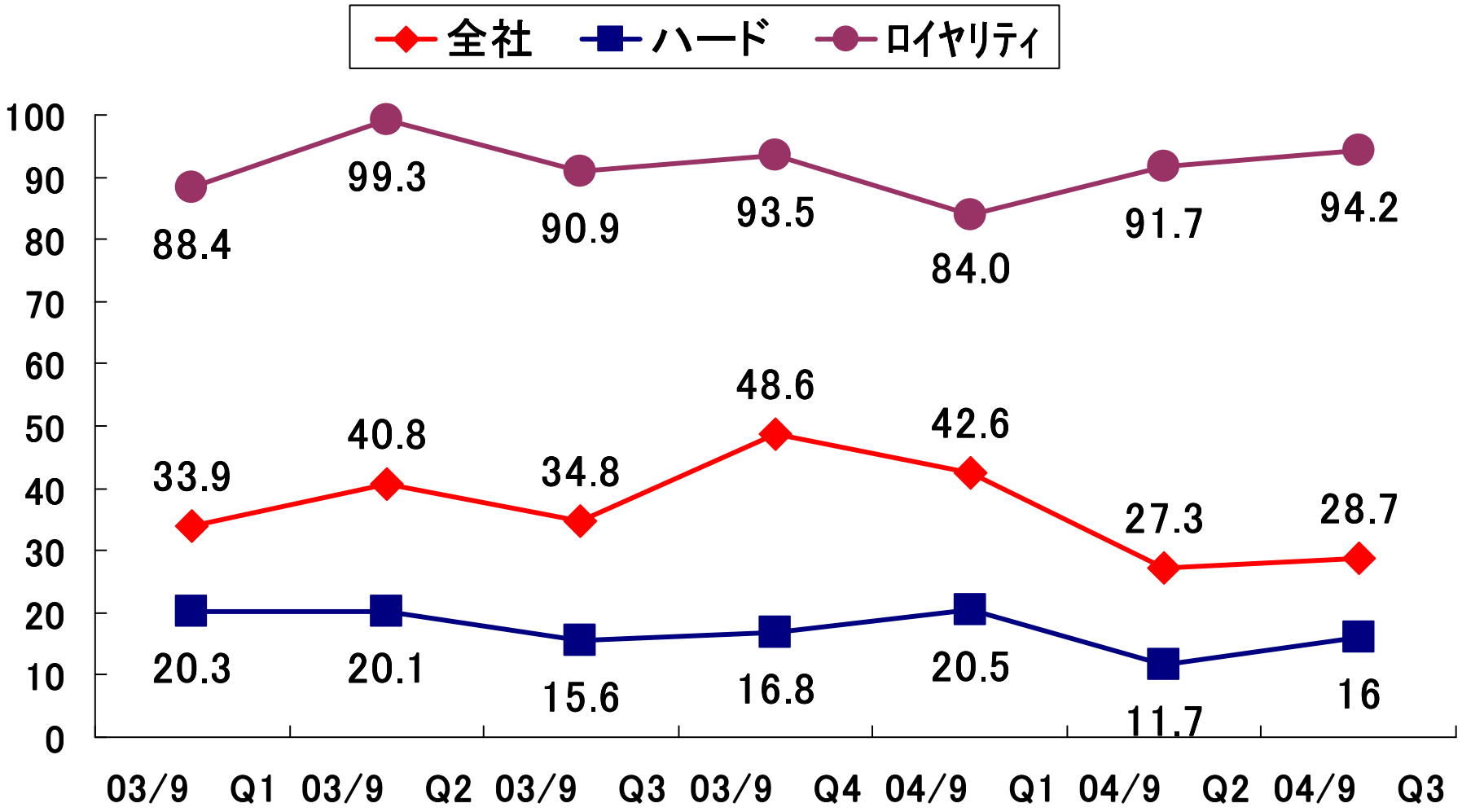


ノートPC向けが増加

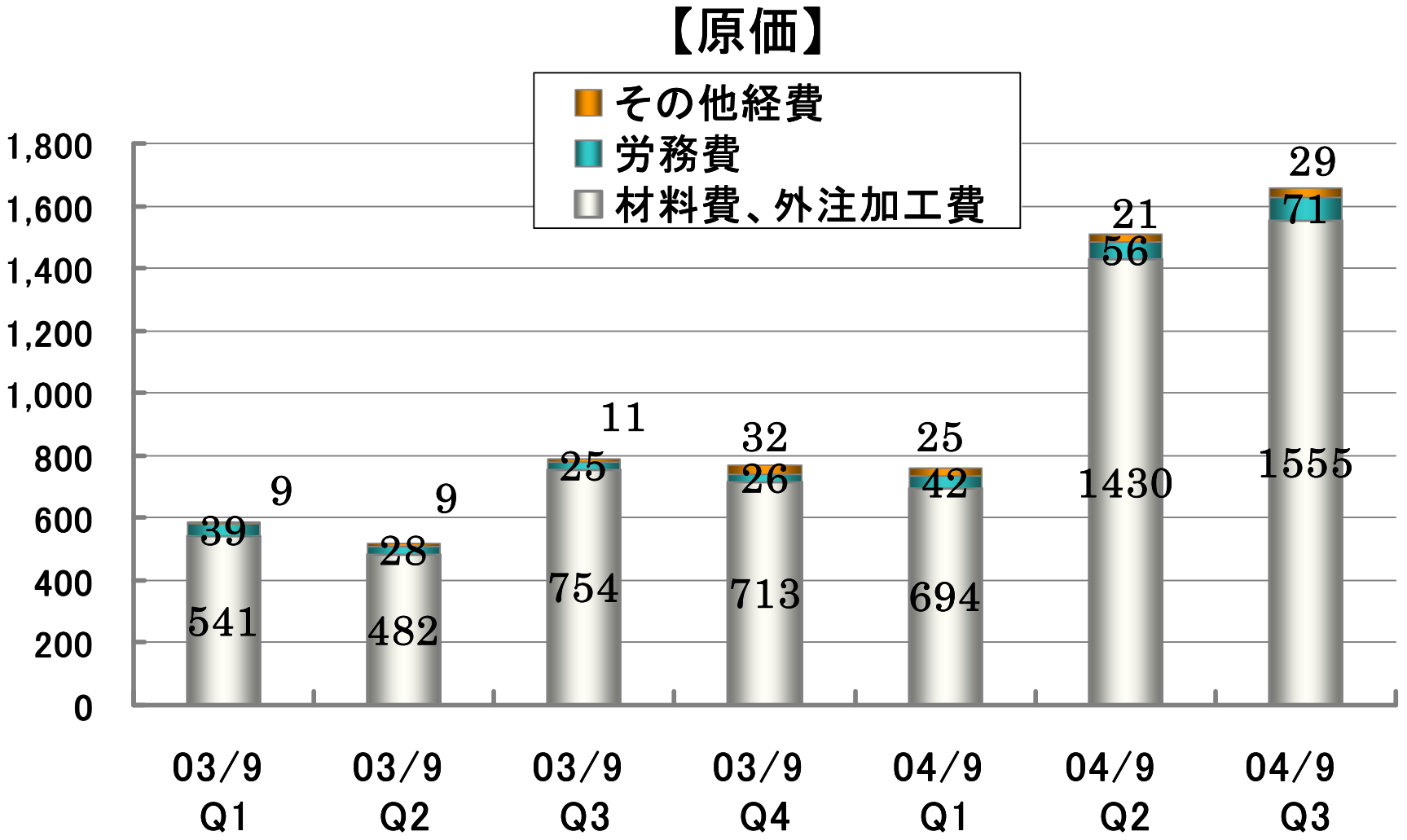
【ハードOEMの四半期毎の売上高】



売上総利益率の推移

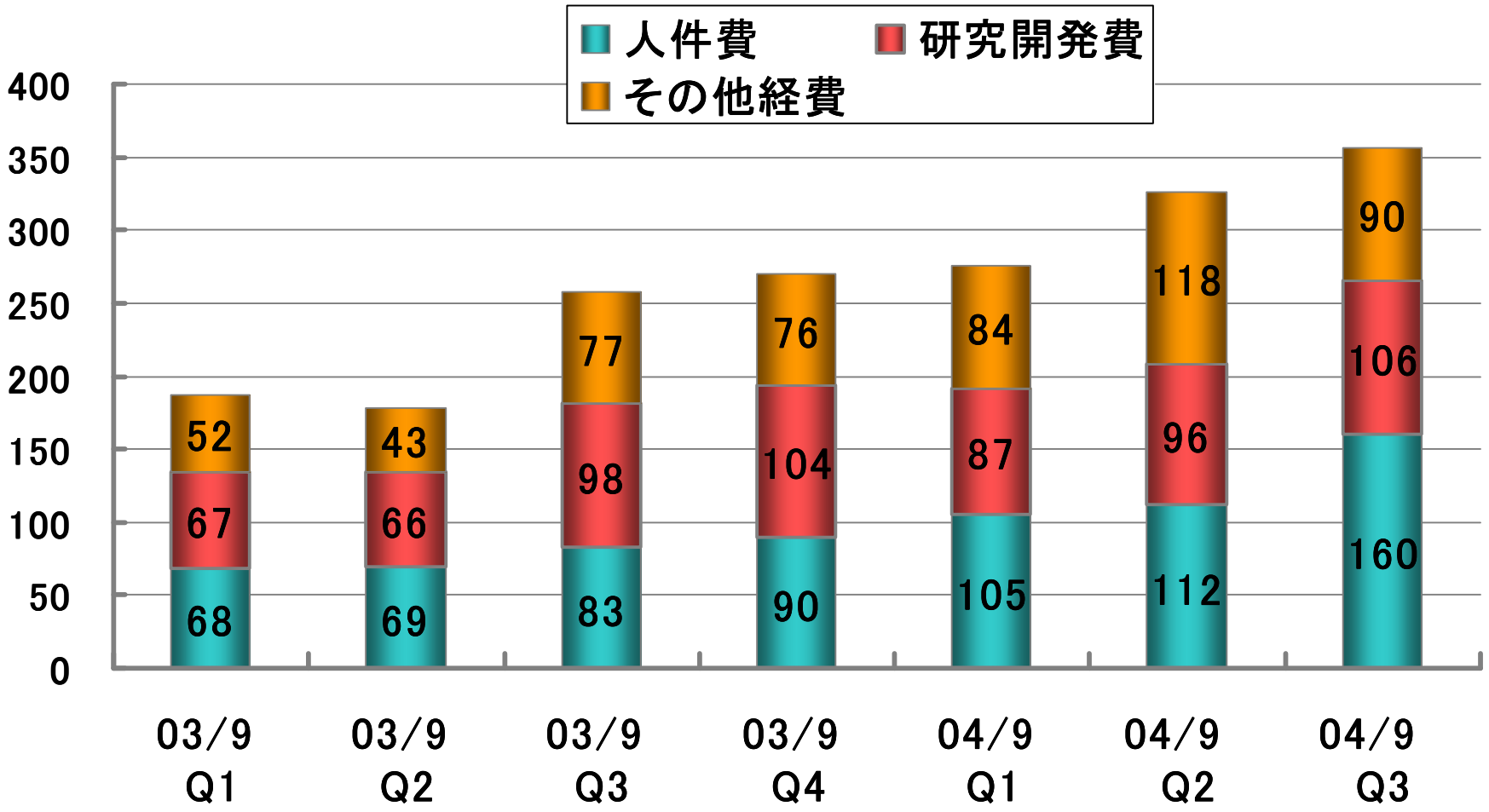

全社
ハード
ロイヤリティ
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
88.4
99.3
90.9
93.5
84.0
91.7
94.2
33.9
40.8
34.8
48.6
42.6
27.3
28.7
20.3
20.1
15.6
16.8
20.5
11.7
16
03/9 Q1
03/9 Q2
03/9 Q3
03/9 Q4
04/9 Q1
04/9 Q2
04/9 Q3

原価の状況


【原価】
その他経費
労務費
材料費、外注加工費
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
9
39
541
9
28
482
11
25
754
32
26
713
25
42
694
21
56
1430
29
71
1555
03/9 Q1
03/9 Q2
03/9 Q3
03/9 Q4
04/9 Q1
04/9 Q2
04/9 Q3

販管費の状況

【販管費】


人件費
研究開発費
その他経費
400
350
300
250
200
150
100
50
0
52
67
68
43
66
69
77
98
83
76
104
90
84
87
105
118
96
112
90
106
160
03/9 Q1
03/9 Q2
03/9 Q3
03/9 Q4
04/9 Q1
04/9 Q2
04/9 Q3

第4四半期の見通し

◆売上高

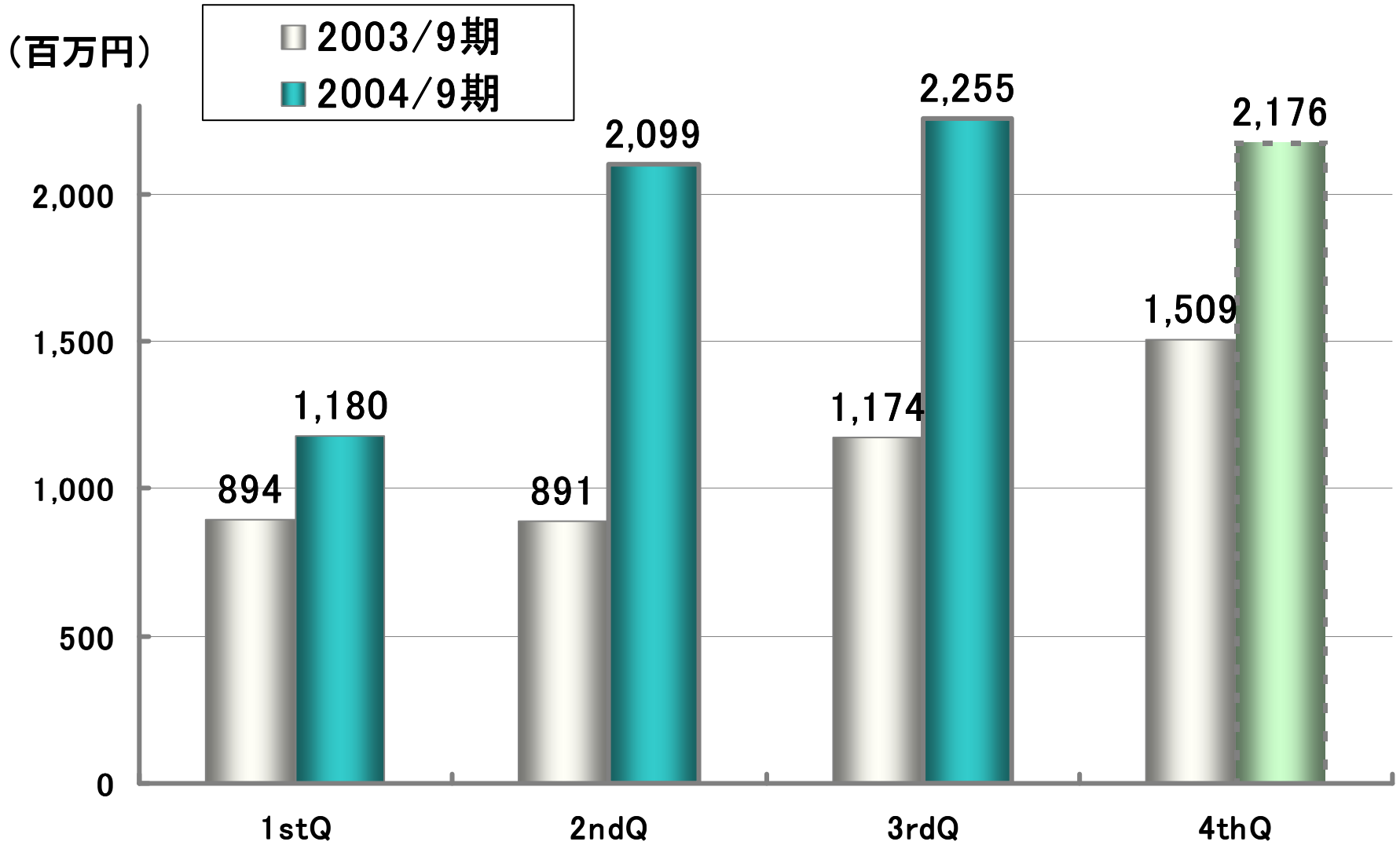
➢ハードウェア、ロイヤリティの供給先の販売好調で、計画達成の見込み

◆費用・利益

➢人員増加によるコスト増

- 営業
- 研究開発

四半期毎の売上高推移

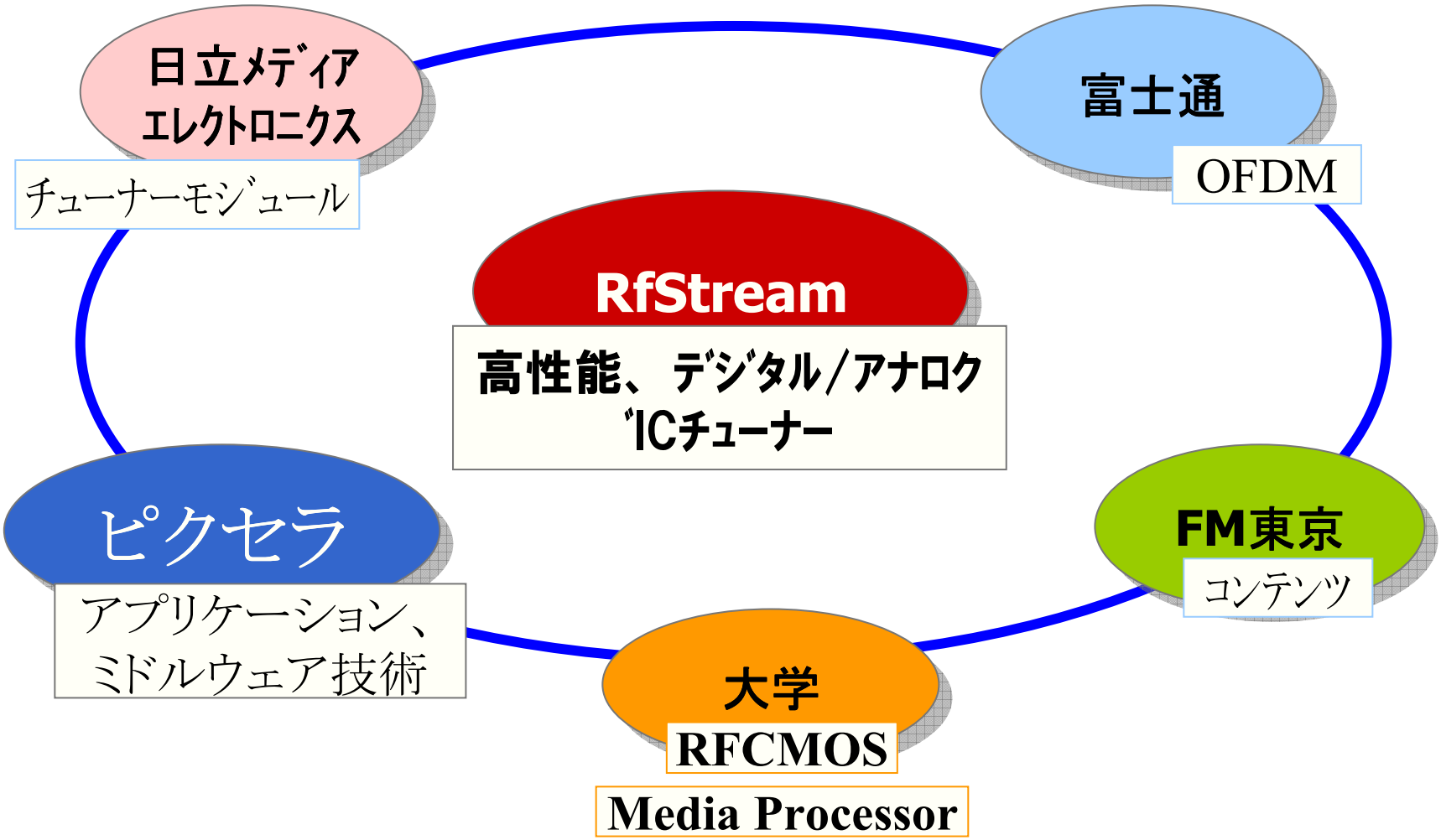

（百万円）
2003/9期
2004/9期
2,000
1,500
1,000
500
0
894
1,180
891
2,099
1,174
2,255
1,509
2,176
1stQ
2ndQ
3rdQ
4thQ

今後の開発方針

ユビキタス社会実現をリード

- シリコンチューナー開発でのパートナーシップ
  - それぞれの強みを活かす
  - 業界内での優位性を強固なものに
- 高品質、小型化、省電力ニーズに対応
  - モバイル端末への展開
  - 新規供給先の開拓：海外メーカーへのアプローチ

シリコンチューナーのパートナー



地上波デジタル対応方針

- 富士通との技術協力
  - 富士通デジタルIPコアを活用
- 日立メディアとの製造協力
  - 量産化と品質保証
- 海外メーカーへの供給
  - 日本でのARIBの仕様は海外メーカーの参入障壁

海外メーカー向けに日本仕様のチューナー・アプリケーション供給

- サードパーティーで自社開発はピクセラだけ

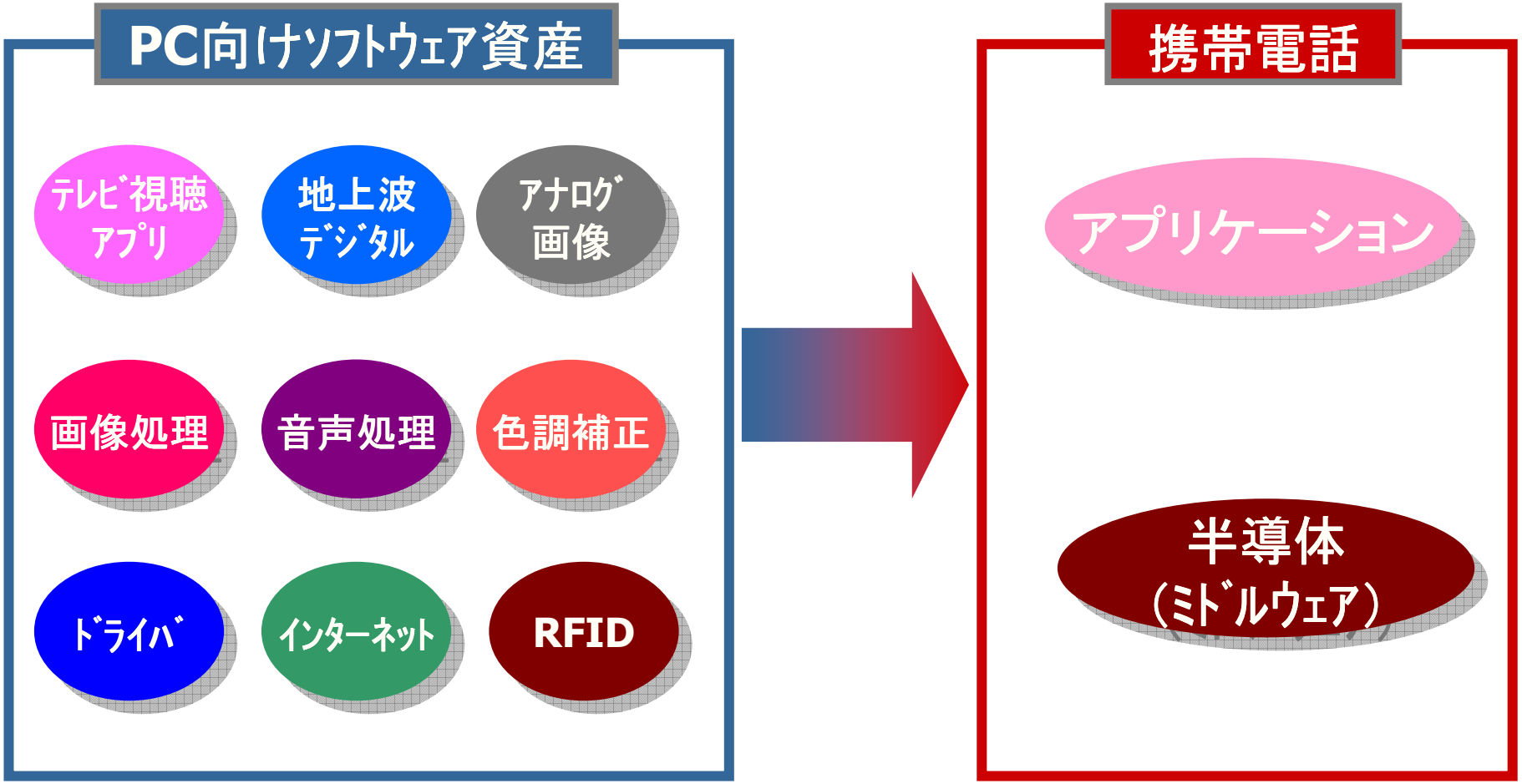
モバイル機器、そして海外へ

◆シリコンチューナー化により展開が広がる

- アナログ波とデジタル波をソフトウェアで切り替え
  - 海外への展開が可能
- 省スペース、省電力化
  - モバイル機器への応用

ノートPC　携帯電話　海外製TV

PC向け資産を組込ソフトに



製品展開について

製品戦略

- TVｷｬﾌﾟﾁｬｰ：
  ノートPC、地上波ﾃﾞｼﾞﾀﾙ対応ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄ
- ﾛｲﾔﾘﾃｨ製品：ﾕｰｻﾞｰ別機能拡大
- USBﾋﾞﾃﾞｵｽﾄﾘｰﾑｸﾗｽﾀ対応変換ﾁｯﾌﾟ
- ｼﾘｺﾝﾁｭｰﾅｰの採用ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄの量産化

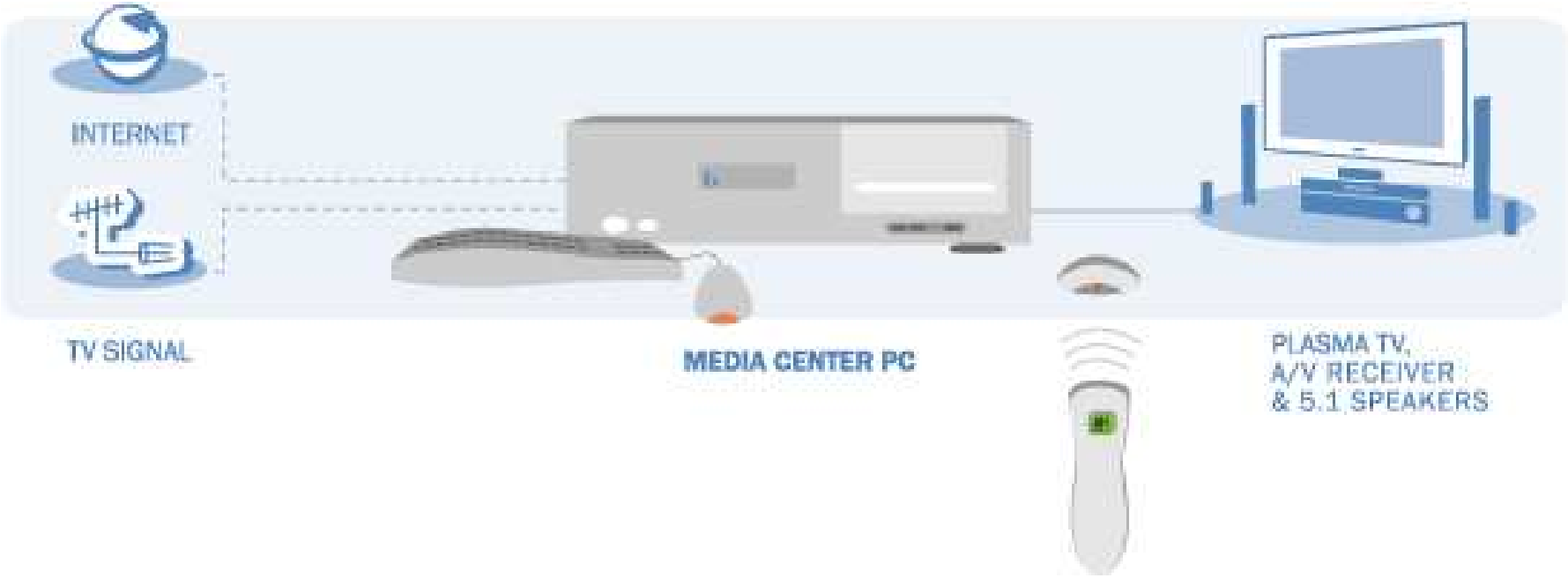
ハードウェア事業：TVキャプチャー

TVキャプチャーの主なOEM供給先

メーカー名	製品	供給開始時期
富士通	デスクトップ、ノート	2002/9
日立	デスクトップ、ノート	2001/10
東芝	ノート	2002/11
デル	デスクトップ	2003/9
新規先①	デスクトップ	2004/9予定
新規先②	デスクトップ	2004/11予定

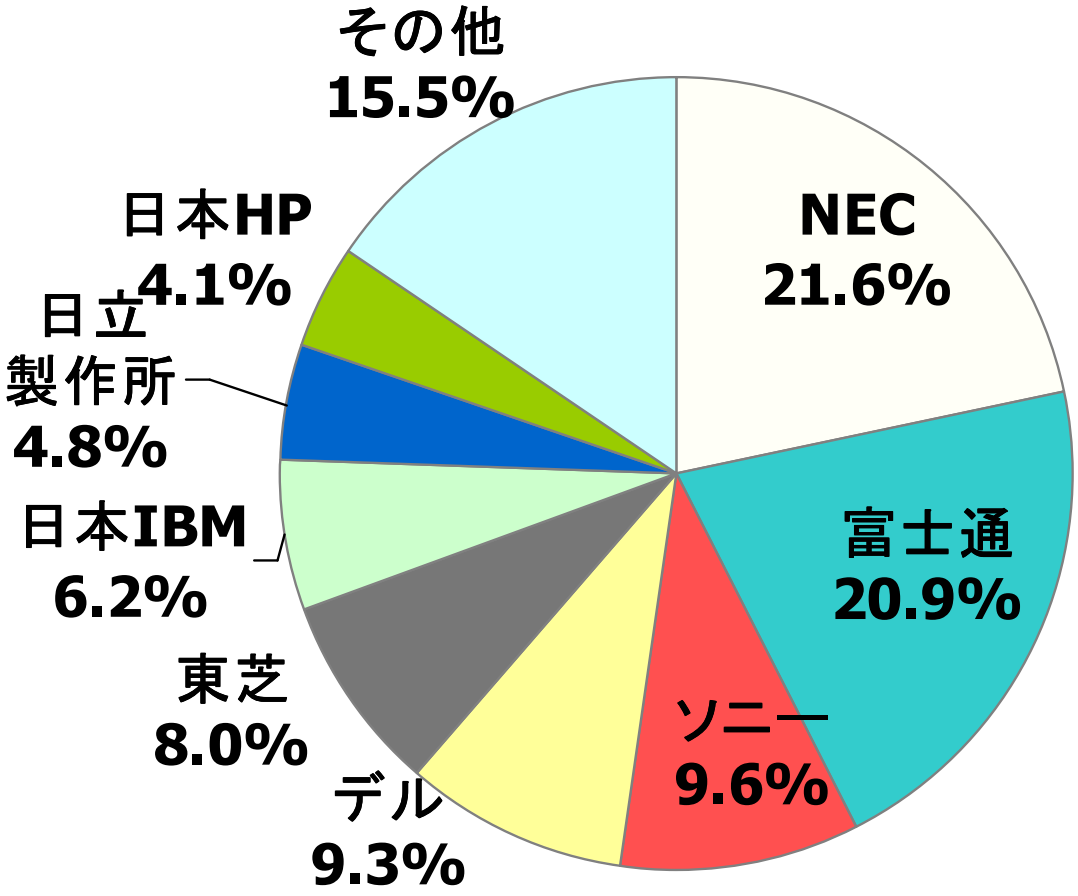
メディアセンターエディションとの連携強化

- メディアセンターエディションの進化に即応
- リモコンでPCのデジタルエンターテイメント観賞
  - TV視聴、録画、再生、DVD、デジタルフォトスライドショー



新規供給先の拡大

■2003年パソコン出荷シェア

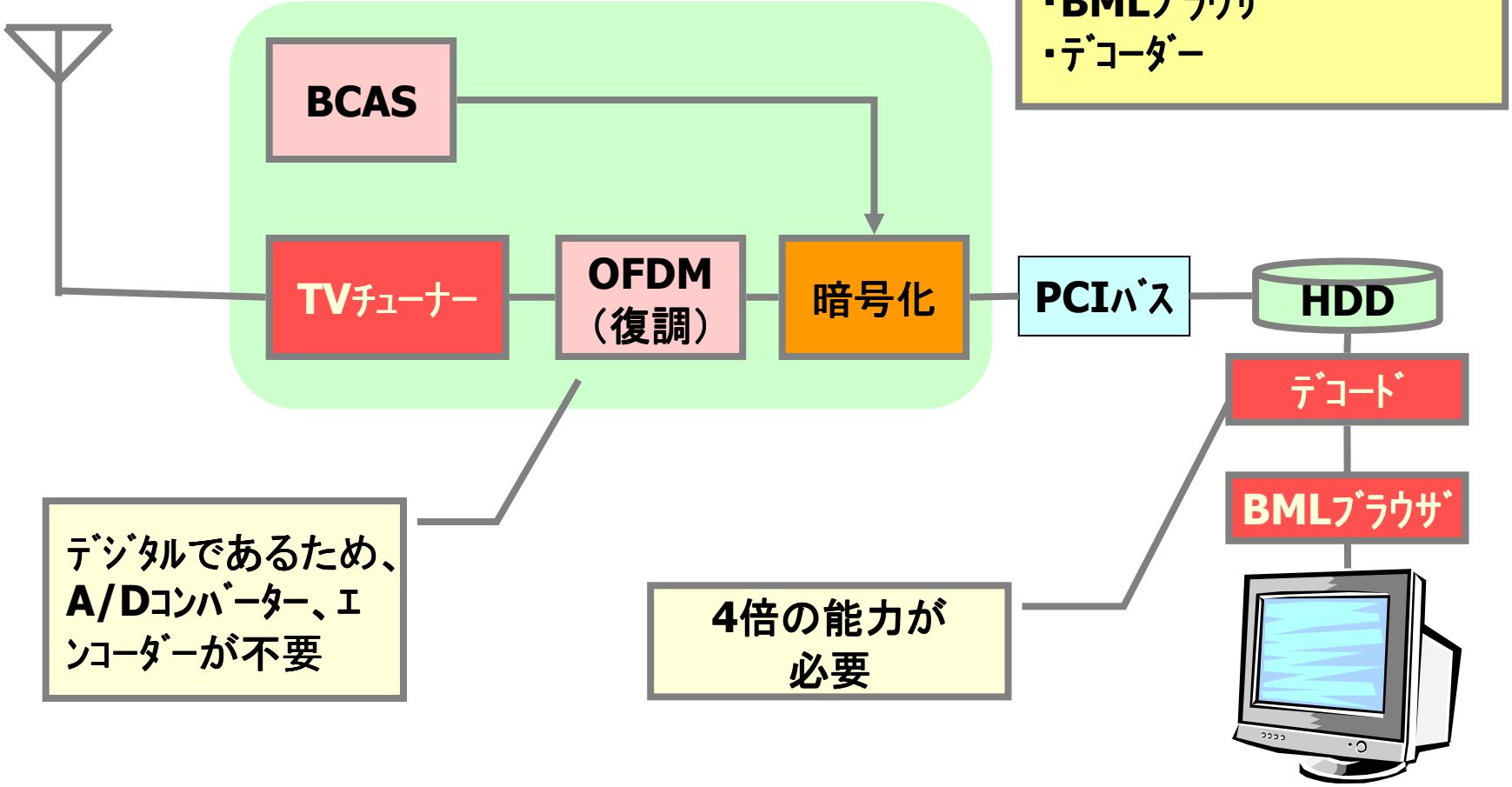


マルチメディア総研のニュースリリースより

PC向けデジタルTVキャプチャー

◆地上波デジタル対応TVｷｬﾌﾟﾁｬｰの概要

PC向け地上波デジタル
・ﾁｭｰﾅｰ
・BMLﾌﾞﾗｳｻﾞ
・ﾃﾞｺｰﾀﾞｰ

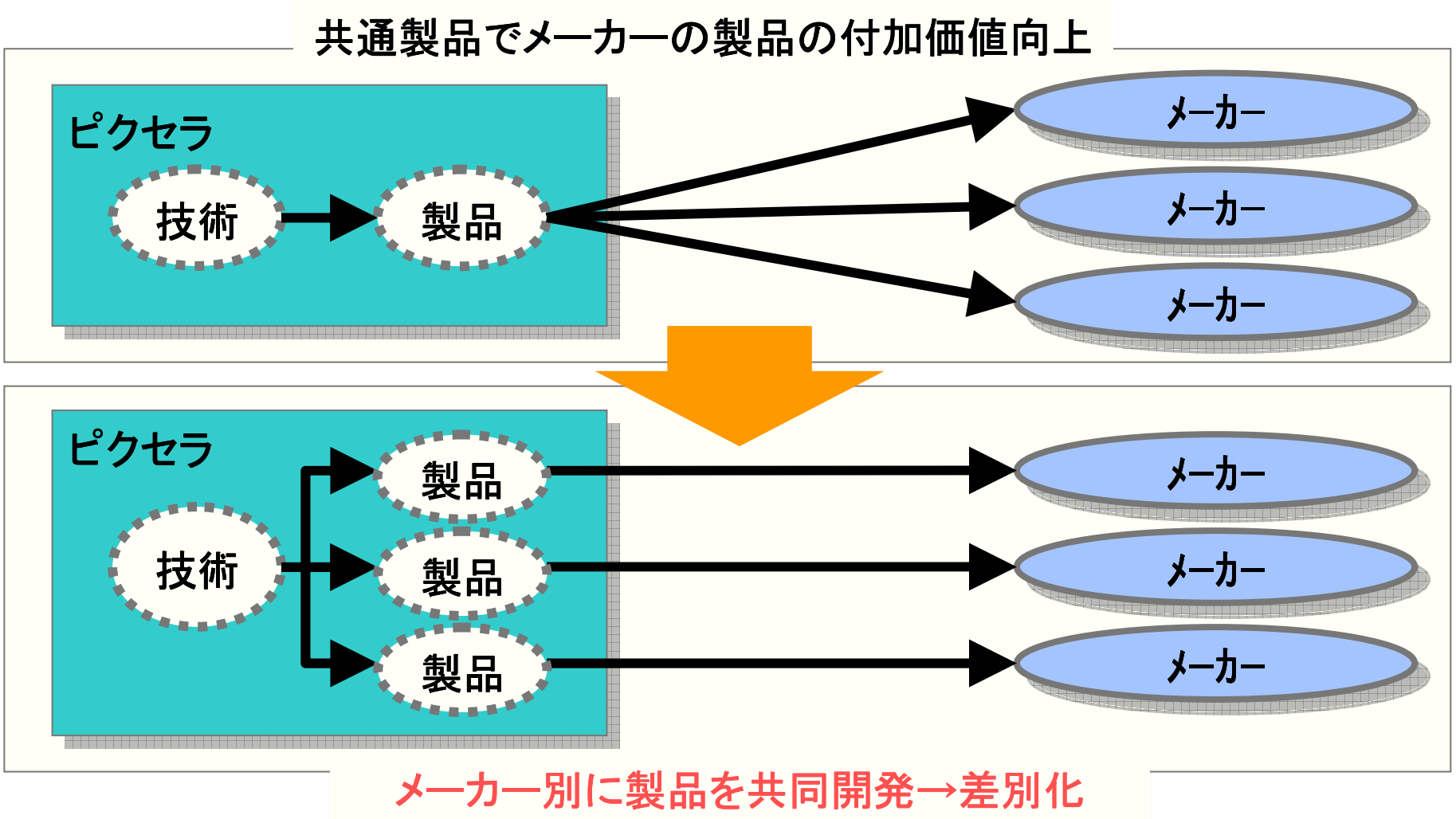


ロイヤリティ事業：ImageMixer

ImageMixerの主な同梱先

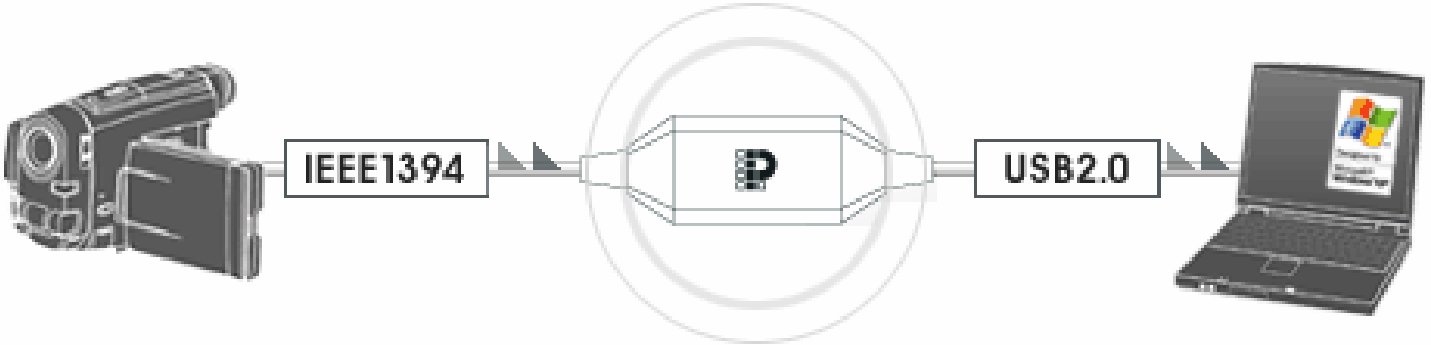
メーカー名	製品	供給開始時期
ソニー	ﾃﾞｼﾞｶﾒ、DVC	2002/3
JVC	DVC	2001/10
富士写真	ﾃﾞｼﾞｶﾒ	2002/9
新規先①	ﾃﾞｼﾞｶﾒ	2004/10予定
新規先②	ﾃﾞｼﾞｶﾒ	2004/12予定
新規先③	ﾃﾞｼﾞｶﾒ	2005/1予定

ユーザー別に機能を多様化

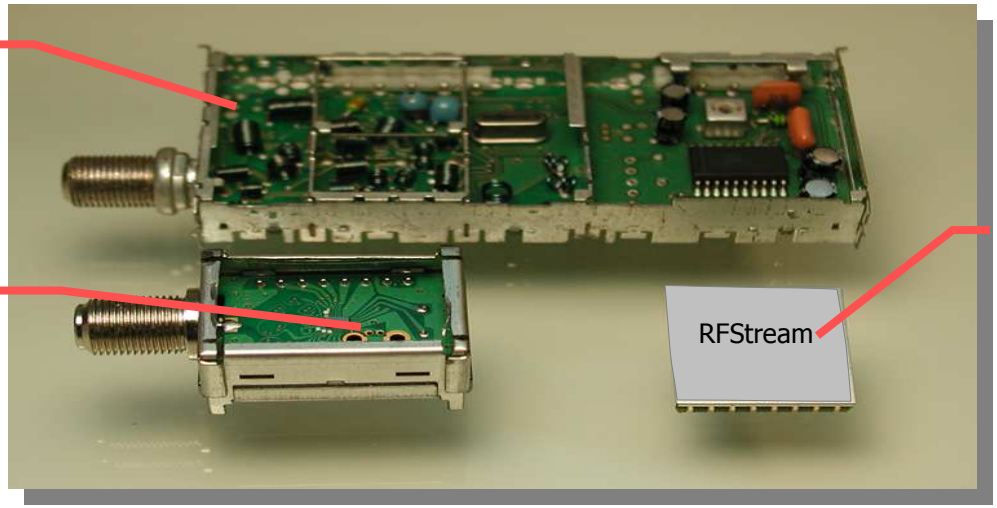


USBﾋﾞﾃﾞｵストリームクラス対応変換チップ

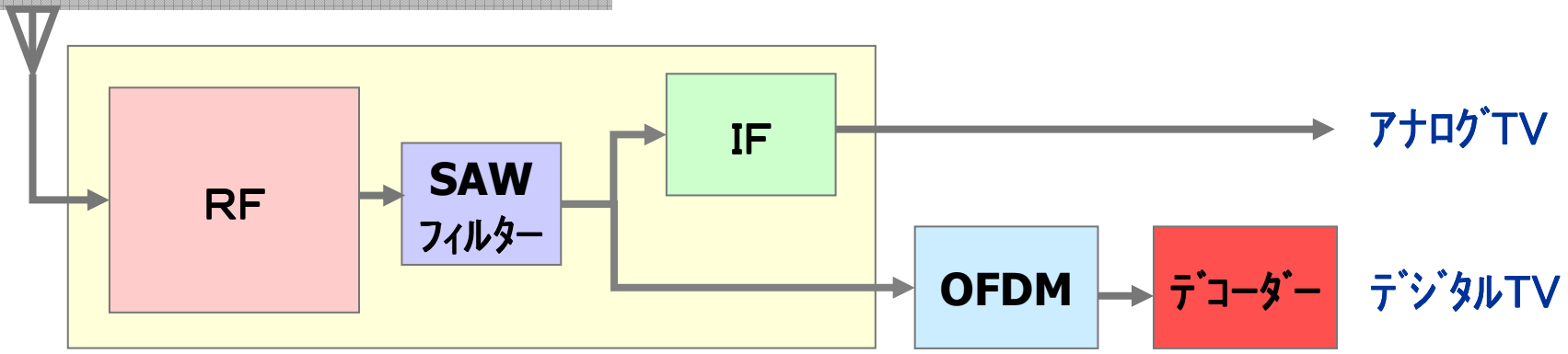
- USB2.0にてDV画像をPCへ
  - Win系はUSB2.0が主流
- マイクロソフト社との長年のコンタクトにより実現
  - ロゴを取得
- DVCへの内蔵も視野に



シリコンチューナーの概要

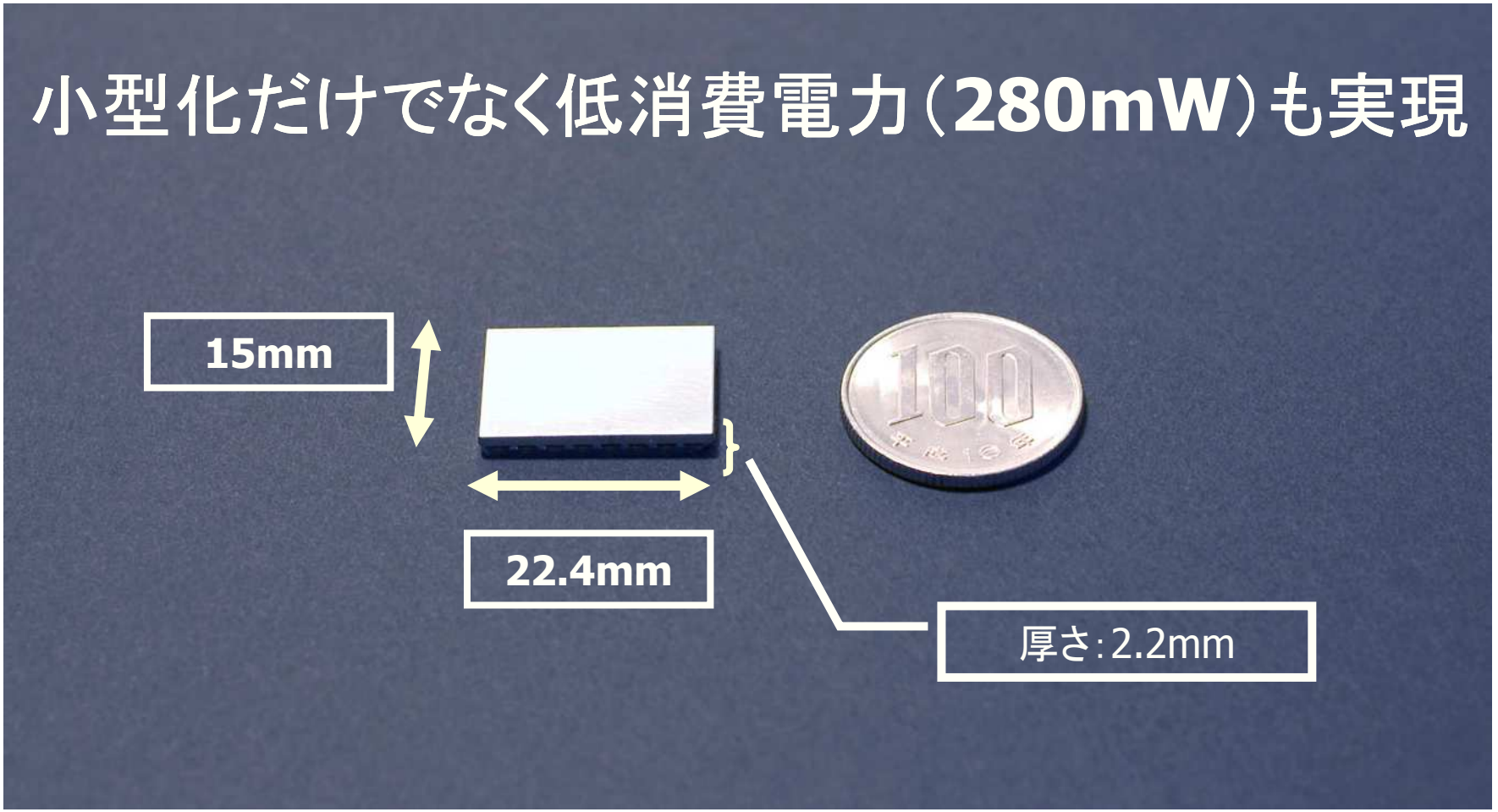


シリコンチューナーの基本構造 （TW-1000の場合）



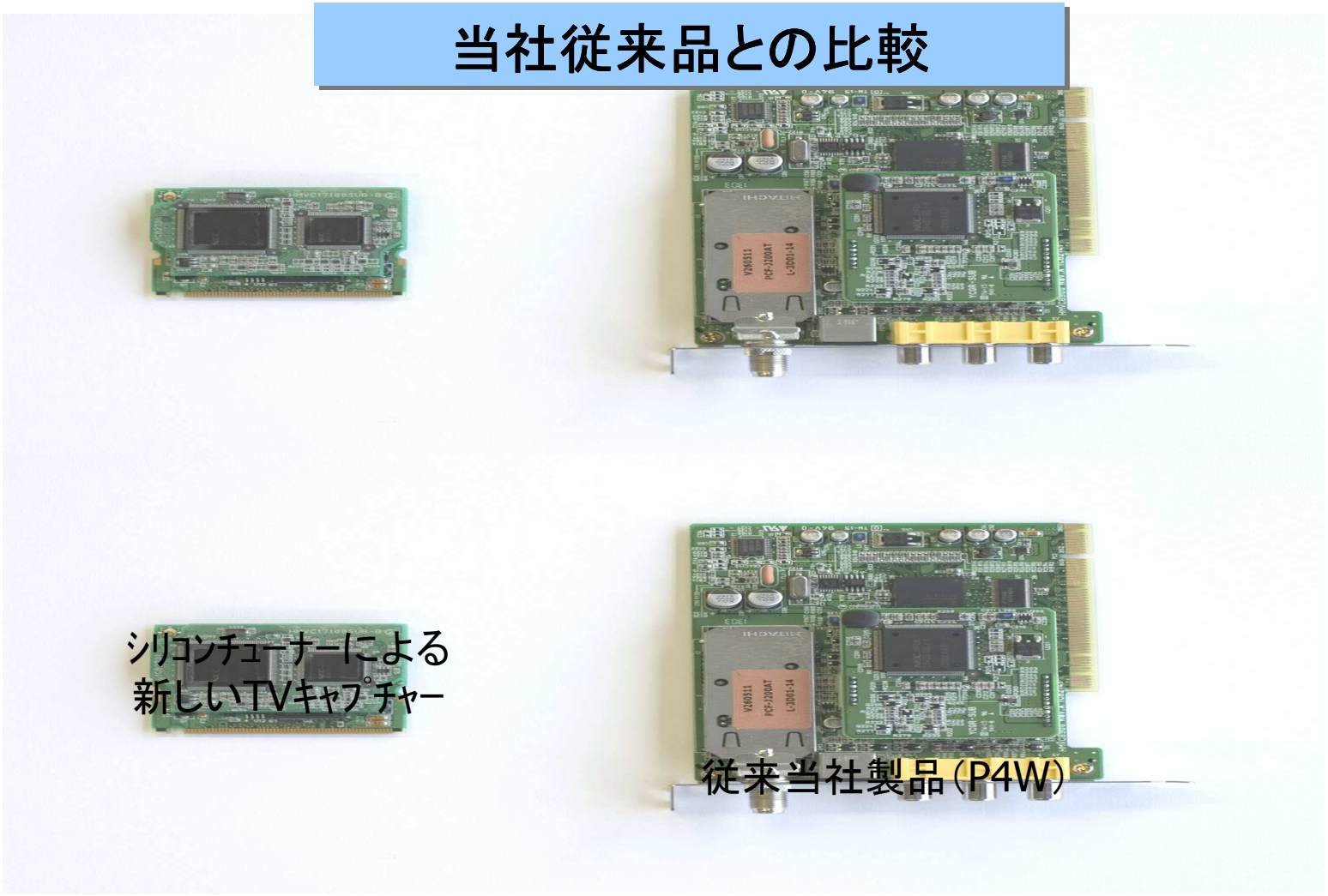
チップ化による小型化

小型化だけでなく低消費電力（280mW）も実現

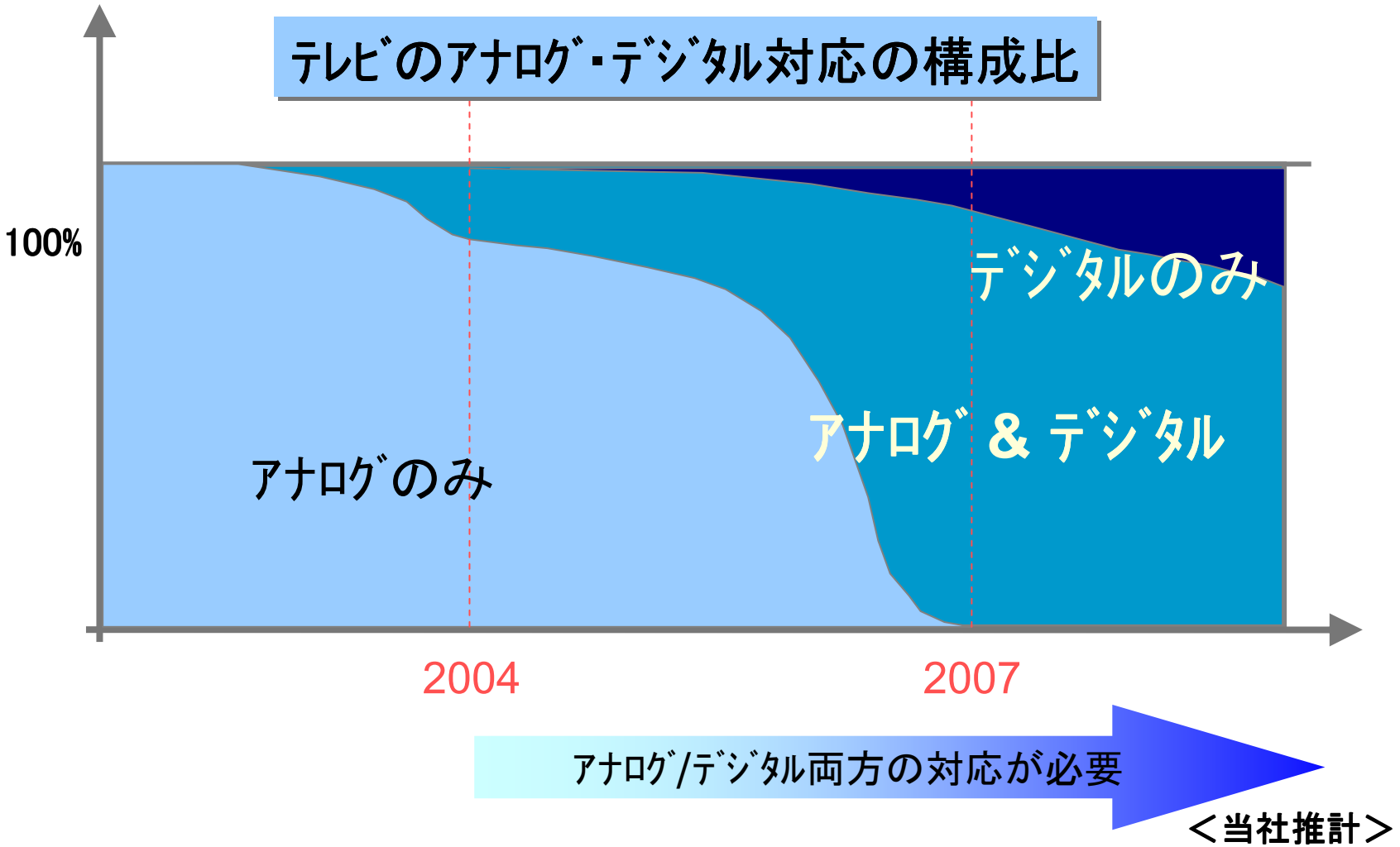


TVキャプチャーも小型化

当社従来品との比較

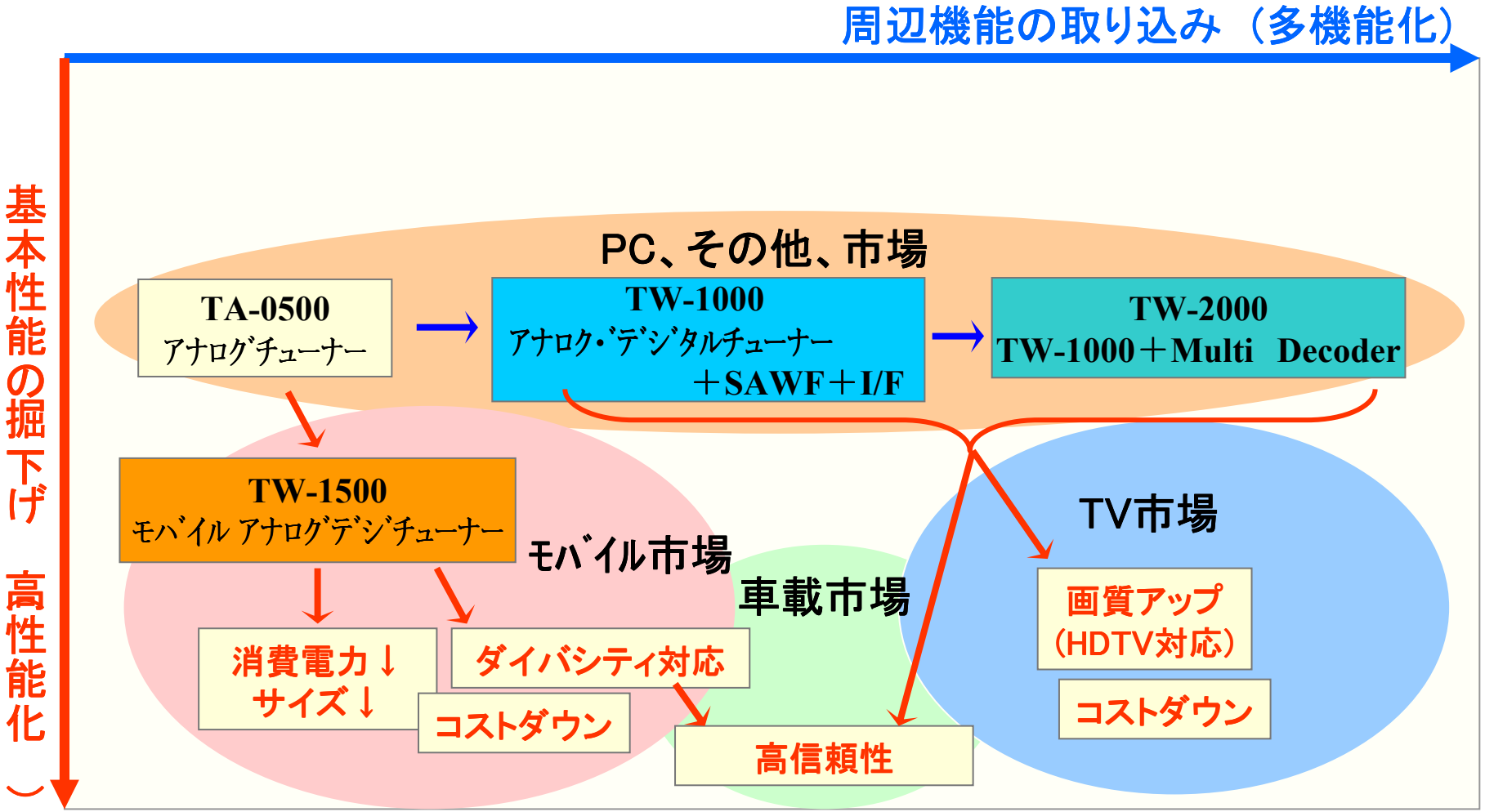


ﾃﾞｼﾞﾀﾙ/ｱﾅﾛｸﾞ両方に対応

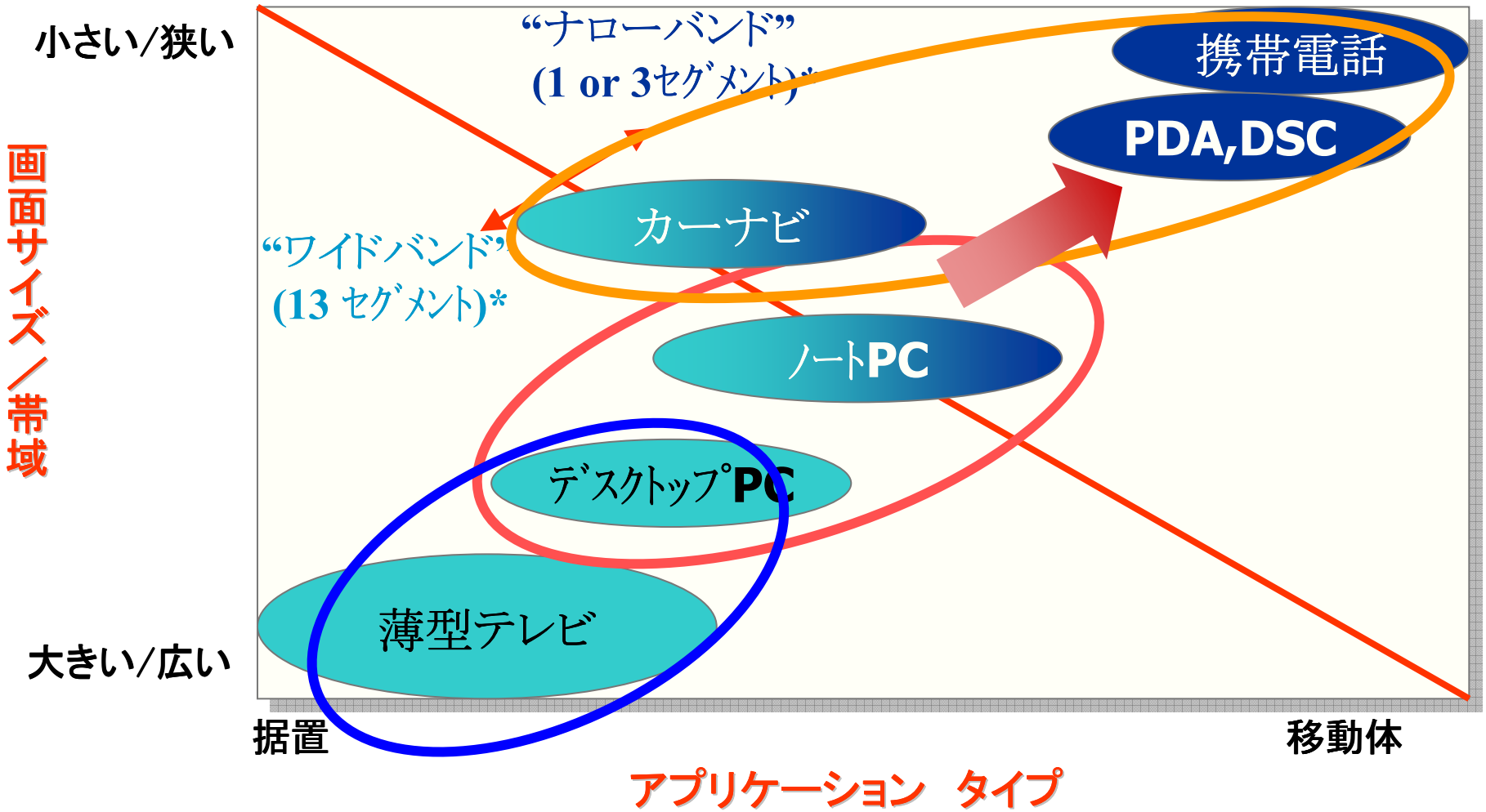


＜当社推計＞

Rf Streamの商品開発のロードマップ

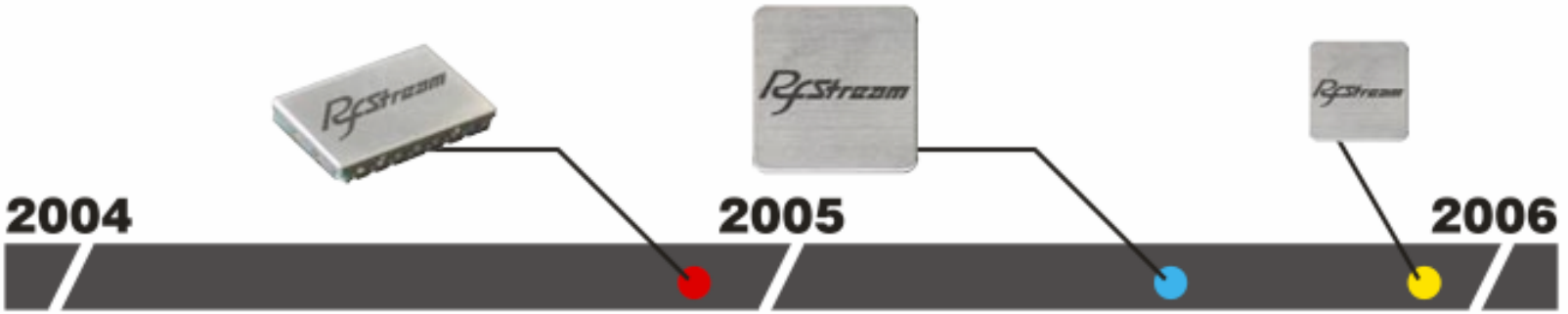


デジタル化プロダクトの展開



製品リリースのスケジュール

	アナログ対応	アナログ／デジタルデュアル対応	小型モバイル機器向け アナログ／デジタルデュアル対応
製品名称	RFチューナーモジュール NOW AVAILABLE	シリコンチューナーモジュール	シリコンチューナーモジュール
製品型番	TA-0500-ST	TW-1000-ST	TW-1500-SX
消費電力	280mW	アナログ：280mW デジタル：250mW	アナログ：100mW デジタル：85mW
サイズ	21.4×15×2.2(mm)	21×21×2.2(mm)	12×12×1.4(mm)
量産予定時期	2004年12月	2005年中頃	2005年末
特徴	ワールドワイド対応 小型サイズ	ワールドワイド対応 13セグメント放送対応 小型サイズ(IF、SAWF機能内蔵) 低ノイズ性能	1／3セグメント放送対応 超小型サイズ(IF、SAWF内蔵) 超低消費電力



© RfStream Corporation All Right Reserved

資料取扱上のご注意

- 本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- 当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。